

生活

旬のやさしい クレソン
 淡い辛みと香りがあり、ス
 テーキなどの付け合わせによ
 く用いられます。ビタミン・
 ミネラル類を多く含み、血液
 をきれいにする効果も。

くらしのこよみ

うつくしいくらしかた研究所

◎ 東京新聞

●胆道感染症

当院の訪問診療を受けている患
 者さんが発熱で入院するケースの
 原因を調べてみますと、肺炎、尿
 路感染に次いで、胆のう炎や胆管
 炎など胆道系の感染症が8%を占
 め、三番目に多くなっています。



Dr.松井英男の

在宅医療のカルテ

この感染症の症状としては、高齢
 者の場合、何となく元気がない、
 食欲がない、というだけのことも
 多く、腹部の診察で初めて胆のう
 炎を疑うことも。診断には、血液
 検査やベッドサイドでの超音波検
 査を行います。その所見から、自
 宅での治療が可能なのか、入院な
 のかを判断します。

例えば、胆のう炎では、食事を
 軽くしたり、抗生剤を使用した治
 療で軽快することもありますが、
 胆のうの炎症が重いと、胆のうに
 管を刺して胆汁を体外に出す処置

や、胆のうそのものを外科的に切
 除するなどの治療を選択する必要
 があります。また、総胆管結石が
 原因の場合、胆汁の流れが滞り、

病院との連携で治療

胆管炎という重い病気になる例も
 見られます。この場合は、口から
 内視鏡を入れる検査をして結石を
 取り除いたり、ステントという管



ベッドサイドで超音波検査を行う

を胆管に挿入して胆汁の流れをよ
 くします。

九十代のKさんは、脳梗塞後遺
 症、高血圧、糖尿病などで訪問診
 療を受けています。三年前に黄疸
 になり、総胆管結石症と診断され
 て結石を取り除く治療を受けまし
 た。あるとき、腹痛と嘔吐がある
 と訴えがあり、往診をしました。
 診察と超音波検査の所見から、胆
 のう炎および胆管炎と考えられ、
 入院治療を受けることになりました。
 一時はたいへん危険な状態で
 したが、内視鏡によって総胆管に
 ステントを入れることで病状も改
 善し、再び自宅療養に戻ることが
 できました。このように、高齢者
 の在宅療養を支えるためには、病
 院との診療連携が大切です。

(川崎高津診療所院長)
 次回は十九日掲載